

第1学年 「国語」

1 学習の目標

○自分の考えを、目的や場面に応じて話したり聞いたりできるようにしよう。

○自分の考えを、しっかり表現できるようにしよう。

○様々な文章を読んで、内容をしっかりつかめるようにしよう。

【知識・技能】

○社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。

【思考・判断・表現】

○筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

2 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の事項について、他の学習や生活の場面でも活用できる態度に概念等を理解したり、技能を取得したりしている。 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (漢字、語彙、文等のきまり、表現技法等) (2)情報の扱い方に関する事項 (情報と情報との関係、情報の整理等) (3)我が国の言語文化に関する事項 (伝統的な言語文化、書写等)	各単元の中で設定されている「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を通して、既習の知識や技能等を適切に活用したり、複数の知識や技能等を結び付けたりしながら、学習課題や自分なりの問いに対して、考えたり、判断したり、表現したりしている。	各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、最後まで粘り強く学習しようとしている。
・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・単元テスト	・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・単元テスト	・振り返り ・その他の2観点の学習状況

3 学習方法についてのアドバイス

学校	・学習課題を捉え、自分なりの問いをもち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。
家庭	・授業に入る前には、教材文をくり返し読み、新しい漢字や分からない言葉を調べましょう。 ・教科書等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・自分が興味をもった本を中心に計画的に本を読むようにしましょう。

4 学習計画 (A:知識・技能 B:思考・判断・表現)

	各単元と主な内容	学習のねらい
一 学 期	朝のリレー(A) 声を届ける 野原はうたう 書き留める/言葉を調べる 続けてみよう 1 学びをひらく はじまりの風(B) 情報を聞き取り、要点を捉える(A) 言葉1 音声の仕組みや働き 話の構成を工夫しよう(B) 漢字1 漢字の組み立てと部首(A) 2 新しい視点で ダイコンは大きな根(B) ちょっと立ち止まって(B) 思考のレッスン 比較・分類 情報を整理して説明しよう(A) 言葉2 指示する語句と接続する語句 書写 硬筆展覧会にむけて(A) 硬筆姿勢・楷書 3 言葉に立ち止まる 空の詩 三編(B) 言葉3 さまざまな表現技法(A) 比喩で広がる言葉の世界(B) 文法1 言葉の単位(A) 情報×SDGs 本の中の中学生 読書を楽しむ	・表現の特徴について自分の考えをもつ。 ・本やインターネットなどから必要な情報を集めるための方法を身につける。 ・日常生活の中からテーマを決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。 ・登場人物の心情を表す表現に着目して作品の理解を深める。 ・登場人物の行動から、その気持ちの変化を捉える。 ・聞き手が知りたい情報を考えて、日常生活の中から交流を通して話題を決める。 ・漢字の組み立てと部首を理解する。 ・文章の中で使われている言葉の意味や内容を捉える。 ・段落の役割や文章構成を考える。 ・語句の意味を的確に捉え、自分なりの考えをもつ。 ・観点を決めて多くの言葉を集め、日常生活を題材とした推薦文を書く。 ・情報を読み取り、適切な引用の仕方を理解する。 ・指示する語句と接続する語句の働きについて理解する。 ・硬筆展覧会にむけての作品作りに取り組む。 ・詩に描かれた情景や表現の効果を考える。 ・比喩について理解し、言葉について考えを深めたことをまとめる。 ・本からの情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取る。
二 学 期	4 心の動き 大人になれなかった弟たちに(B) 星の花が降る頃に(B) 項目を立てて書こう(B) 読み手の立場に立つ(B) 言葉4 方言と共通語(A) 聞き上手になろう(B) 漢字2 漢字の音訓(A) 5 筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(B) 思考のレッスン1 意見と根拠 根拠を明確にして書こう(B) 文法2 文の組み立て 大阿蘇 6 いにしへの心にふれる 古典の世界 音読を楽しむ/いろは歌 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から 今に生きる言葉(A) 7 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す(B) 思考のレッスン2 原因と結果 話題や展開を捉えて話し合おう(B) 読書案内(B) 書写 書きぞめ展覧会にむけて(A) 楷書と仮名の調和・行書	・描写に着目し、登場人物の心情を捉える。 ・文脈の中の語句の意味を捉え、情景を想像して詠む。 ・登場人物の行動や情景描写などから作者の思いを捉える。 ・表現の特徴や、時代の描かれ方などに着目し、自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考える。 ・共通語と方言の果たす役割について理解する。 ・漢字の音と訓について理解する。 ・記録の文章の構成に興味をもち、図表の役割に着目して、事実と筆者の考えを読み分ける。 ・筆者の論と展開の特徴を理解し、説得力のある文章を書くために使ってみよう工夫をあげる。 ・文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。 ・古文の言葉の響きや調子に読み慣れる。 ・古典の世界にふれ、様々な作品があることを知る。 ・古文の表現の特徴を知り、古典の文章に読み慣れる。 ・故事成語の由来と意味を理解し漢文独特の言い回しに読み慣れる。 ・固定観念に捉われずに考えたとき、価値が見いだせるものをあげる。 ・日常生活や他教科の学習で生かすことができる場面を考える。 ・話の筋道を理解するには、原因と結果の関係を捉えることが大切であると理解する。 ・毛筆、文字の大きさ、字形、配列を理解する。 ・書きぞめ展覧会にむけての作品作りに取り組む。
三 学 期	8 自分をみつめる 少年の日の思い出(B) 文法3 単語の分類(A) 二十歳になった日 構成や描写を工夫して書こう 漢字3 漢字の成り立ち(A) 一年間の学びを振り返ろう ぼくがここに(B)	・場面や人物の描写に注意して登場人物の心の移り変わりを捉える。 ・語句の意味を正確に捉え、登場人物のものの見方や考え方に自分の意見を持つ。 ・言葉の並べ方の工夫や比喩について理解する。 ・観点を決めて作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書く。 ・単語の分類について理解する。 ・伝えたいことをフリップにしてまとめ、互いに読み合い、自分の表現に生かす。 ・漢字の成り立ちについて理解する。 ・詩の中の言葉や表現を読み味わい、ものの見方や考え方を広くする。